

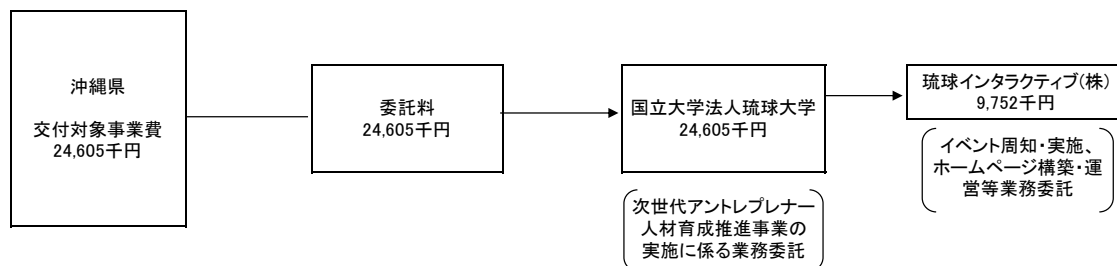
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	133	次世代アントレプレナー人材育成推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(5)-ウ 新産業の創出や産業のグローバル化を担う人材の育成		
			担当部署名	商工労働部産業政策課	事業実施(予定)年度	平成27～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所
事業内容	起業家マインド(アントレプレナーシップ)を有する人材を継続的に育成・輩出する仕組み作りを推進する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】			25年度	25年度(繰越)	26年度	26年度(繰越)	27年度
	予算の状況	(a)当初予算額	0	-	0	0	28,920
		(b)予算現額	0	-	0	0	28,920
		(c)増減額(b-a)	0	-	0	0	0
		(d)前年度繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	0	-	0	0	28,920
	B.執行済額		0	-	0	0	24,605
	うち交付金充当額		0	-	0	0	19,684
	C.次年度繰越額		0	-	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		-	-	-	-	85.1%
予算の状況の説明		・執行率は85.1%であり、委託料の節減(3,910千円)によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	大学等に講師及びメンターを派遣し講義及びセミナー等を実施する	目標				80回	
		実績				166回	
	ビジネスプランコンテストへの支援	目標				支援実施	
		実績				支援実施	
	ビジネスリアルプログラム(イベント出店体験)の実施	目標				ビジネスリアルプログラムの実施	
実績					ビジネスリアルプログラムの実施		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学等に講師及びメンターを派遣し、講義及びセミナー等を166回実施し、目標を達成した。</li> <li>・ビジネスプランコンテストについては、ビジネスプランのブラッシュアップ等の支援を行った。コンテストの参加者が47チーム(113人)となり、過去最大規模となった。</li> <li>・「事業計画策定」「販売活動」「決済処理」といった企業活動の一連の流れを実践・体験するビジネスリアルプログラムを実施した。</li> </ul>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(〇〇年度)
	本事業による講義受講者及びセミナー等人材育成プログラム参加者	目標				1,000人	
		実績				1,346人	
	アントレプレナー人材育成に関する大学等間の情報の共有化	目標				情報の共有化	
		実績				情報の共有化	
	参加する大学等の数	目標				4校	
		実績				8校	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学をモデル校として実施したが、より多くの学生の参加を促すため、講座実施のニーズの高い専修学校等も連携して行ったことにより、講義受講者及びセミナー等人材育成プログラム参加者が1,346名、プログラム参加校も8校にまで拡大し、目標を達成した。</li> <li>・沖縄産学官協働人材育成円卓会議における本事業の紹介、有識者委員会の開催や、県外からの講師、沖縄県産業振興公社等との連携を図るなど、ネットワークの促進や情報の共有化を行った。</li> </ul>						

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学等をモデル校として実施したが、より多くの学生の参加を促すため、講座実施のニーズの高い専修学校等も連携して実施した結果、参加者・参加校ともに目標値を上回る結果となったことから、成果実績は「達成」と評価する。</li> <li>・セミナーやイベントへの学生の参加数と継続率を向上させるとともに、学生が実際に起業する際の支援、起業後の支援についても検討が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナーやイベントへの学生の参加数と継続率を向上させるために、今後も引き続き専修学校も対象に講座等を実施し、参加校を増やすとともに、単位取得につながる授業の一環として実施できるよう参加校と連携する必要がある。</li> <li>・学生が実際に起業する際の支援、起業後の支援については、フォローアップの実施、他事業や民間企業との連携に取り組む必要がある。</li> </ul>
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度は出前講座の回数を増やして参加者数を増加させるとともに、引き続き各大学、専門学校等を訪問し、事業周知及び講座実施に向けた要請を行っていく。</li> <li>・起業家支援、ベンチャー企業支援を担う関係機関、他事業、民間企業と連携を強化し、起業を志向する学生のフォローアップ及び関係機関への橋渡しを行う。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
24,605	24,605	19,684	4,921	0	0	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により受託希望者を公募し、選定委員会において決定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	